



特集

## 3R推進「第二次自主行動計画」を発表

3R推進「第一次自主行動計画」の策定から5年、  
3R推進団体連絡会では、これまでの活動の成果等を踏まえて、  
2015年度を目標年次とした「第二次自主行動計画」を発表しました。

5年間の3R推進活動で、成果をあげたガラスびん。  
「第二次自主行動計画」で、さらなる推進目標を掲げる。

2000年に完全施行された容器包装リサイクル法は、2006年6月に初の法改正が行われました。改正に先立ち、中央環境審議会・産業構造審議会における議論の過程で、(社)日本経済団体連合会が提言「実効ある容器包装リサイクル制度の構築に向けて」(2005年10月)を取りまとめ、事業者の自主的な取組みが重要であることを表明。これを受けて、容器包装の素材に係るリサイクル8団体は、3R推進団体連絡会を結成し、同年12月、「容器包装リサイクル法の目的達成への提言」と題する提言を行い、2006年3月に2010年度を目標年次とした3R推進の「自主行動計画」を発表しました。

以後、3R推進団体連絡会では計画項目の達成に向け、取組みを進めるとともに、毎年度の進捗状況を翌年12月にフォローアップ報告として公表。当協議会のホームページ「※3R推進状況」においても、その詳細を報告してきました。ガラスびんにおいては、数値目標も含め一定の成果があげられたものと考えます。

この「第一次自主行動計画」の策定から5年が経過した本年、これまでの成果等を踏まえ、2015年度を目標年次とした「第二次自主行動計画」を発表しました。本年3月28日に開催された中央環境審議会で、その内容が発表されました。



▲第二次自主行動計画の発表

※3R推進状況:[http://www.glass-recycle-as.gr.jp/3r\\_suishin](http://www.glass-recycle-as.gr.jp/3r_suishin)

当協議会では、ガラスびんの魅力を引き出しながら、  
3R推進の取組みをさらに深化させていくことを目指す。

当協議会としては、今回発表された第二次自主行動計画の中で、今まで展開してきたガラスびんの3R推進に関する様々な取組みを、さらに深く掘り下げていく目標を掲げました。

リデュースについては、2004年対比で2015年までに1本当たり2.8%の軽量化を目指し、各ボトラー団体に対し協力を要請していきます。また、軽量化の取組みを広く情報発信していくことも課題としています。リユースについては、社会的な仕組みとしてリユースシステムを存続させるために、国・自治体・事業者・消費者等、すべての関係者と連携して、リターナブルびんの商品のPRや利用実証事業に取組みます。リサイクルについては、「未回収びん」の資源化と「ガラスびん残渣」の減量化により、カレット回収量の増大をはかり資源循環を促進させ、2015年度までに新指標のリサイクル率を70%以上に、これまでの指標のカレット利用率を97%とすることを目指します。また、ガラスびんの3Rに関して、消費者の理解をさらに深めるために、消費者の視点に立った広報活動を積極的に展開していきます。

このようにして、ガラスびんの3R推進の取組みを深化させていく上で重要なポイントとなるのが、ガラスびんの魅力を広くアピールして理解してもらうことです。リデュース・リユース・リサイクルの取組みのベースとして、また需要拡大にもつながるガラスびんの魅力をどのように引き出ししていくかが、当協議会における今後の大きな課題となっています。

## 第一次自主行動計画の推進状況



### 1 リデュース | 2004年対比で2009年実績1本当たり1.8%の軽量化を達成。

#### ■1本当たりの重量変化

2009年実績として、基準年(2004年)対比で1本当たり1.8%の軽量化がはかられ、目標を前倒して達成することができました。1本当たりの単純平均重量は基準年(2004年)の192.3gに対し、2009年実績は182.3gと5.2%(10.0g/本)の軽量化がはかられましたが、これには容量構成比の変化が含まれているため、その要素を除いたネットの軽量化率は1.8%(3.5g/本)となっています。(表1) 残りの3.4%(6.5g/本)は、容量構成比の変化によるものです。なお、基準年(2004年)対比での軽量化による資源節約量は、2006年~2009年(4年間)で、71,095トン(100mlドリンク割びん換算5億9,246万本)となっています。

【表1】1本当たりの平均重量推移

	2004年 (基準年)	2006年	2007年	2008年	2009年
本数(千本)	7,262,950	7,158,306	7,049,797	6,846,912	6,653,700
重量(トン)	1,396,582	1,343,925	1,313,830	1,266,242	1,213,075
単純平均重量(g/本)	192.3	187.7	186.4	184.9	182.3
ネット軽量化率指標(加重平均)	100.0	99.0	98.7	98.6	98.2
軽量化による資源節約量(トン)	-	13,575	17,305	17,979	22,236



#### ■軽量化実績

2006年から2009年までに軽量化された主な品目は、11品種101品目となっています。(表2) なお、軽量化実績の捉え方は、前年と同容量で軽量化された品目について限定しており、容量変更が伴う場合や、新製品の軽量びんは対象外としています。

【表2】2006年から2009年までに軽量化された品目

品目	のべ品目数
小びんドリンク	小びんドリンク(2)
薬びん	細口びん(2)、広口びん(1)
食品品びん	コーヒー(17)、ジャム(6)、粉末クリーム(2)食用油(1)
調味料びん	たれ(9)、酢(7)、ソース(2)、新みりん(2)、つゆ(6)、調味料(9)、ケチャップ(1)
牛乳びん	牛乳(1)
清酒びん	清酒中小びん(5)
ビールびん	ビール(1)
ウイスキーびん	ウイスキー(4)
焼酎びん	焼酎(11)
その他洋雑酒びん	ワイン(9)
飲料びん	飲料ドリンク(1)、飲料・サイダー(2)



### 2 リユース | 2009年、びんのリターナブル比率が50%を割る。

●リターナブルびんの2009年使用量実績は133万トン(基準年比72.7%)となりました。(表3) 経年的な減少傾向に歯止めがかからず、現在では家庭用宅配と業務用という一部限定市場での存続という状態であり、びんのリターナブル比率(リターナブルびん使用量÷(国内ワンウェイびん流通量+リターナブルびん使用量))は2009年で48.7%と50.0%を初めて割る結果となりました。

●経済産業省「地域省エネ型リユース促進モデル事業」環境省「リターナブルびん利用促進事業」などモデル事業に積極的に参画し、リターナブルびんのPRや効率的な回収方法について調査・研究をおこないました。

●量販店市場におけるリターナブルびんの取扱いやあきびんの回収体制の可能性について研究をおこないました。

●一般家庭市場での「回収拠点マップ作り」に関して、全国びん商連合会と協議のうえ、段階的な地域拡大に取り組んでいます。

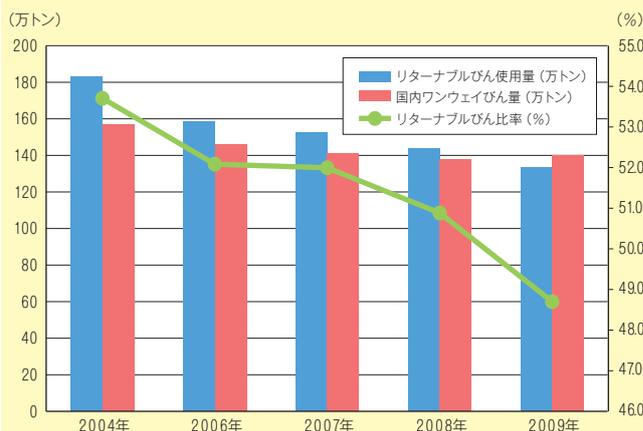
●リターナブルびんポータルサイトを2009年2月より立上げ、活動の「見える化」に取り組む、情報発信に努めています。

●地域で展開されるリターナブルびん促進活動のサポートを地域幹事(NPO団体・びん商)と連携をはかり、継続的な取組みと活動定着を目指しています。

【表3】リターナブルびんの使用量実績(単位:万トン)

	2004年 (基準年)	2006年	2007年	2008年	2009年	2009年実績 基準年比
リターナブルびん使用量	183	159	153	144	133	72.7%
国内ワンウェイびん量*	158	146	141	139	140	88.6%
リターナブルびん比率(%)	53.7	52.1	52.0	50.9	48.7	-

\*輸出入調整後のデータ





### 3 リサイクル | 2009年からリサイクル率の指標を追加し、70%の目標を設定。

●当初目標として設定した「カレット利用率91%」の実績については、ガラス容器製造業における再生材利用促進の向上に努め、2009年は97.5%となりました。(表4) カレット利用率とは、ガラスびん生産量に占めるカレット(再生材)の使用比率です。

表4：カレット利用率の推移

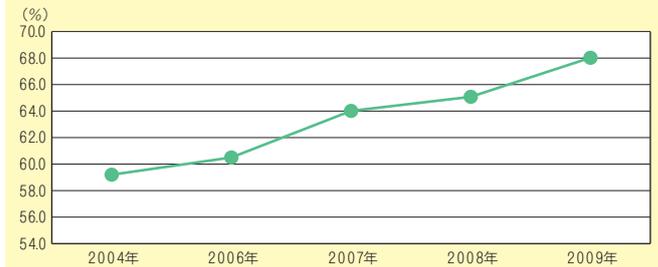
	2004年 (基準年)	2006年	2007年	2008年	2009年
ガラスびん生産量(千トン)①	1,554	1,472	1,433	1,386	1,330
カレット利用量(千トン)②	1,409	1,382	1,368	1,343	1,297
カレット利用率(%)②÷①	90.7	93.9	95.5	96.9	97.5

ガラスびん生産量：経済産業省「窯業・建材統計」 カレット使用量：日本ガラスびん協会資料及びガラスびんフォーラム資料

●2007年からは、「リサイクル率(回収・再資源化率)」の指標を追加し、目標を70%と設定し、取組みを開始しました。「リサイクル率」は毎年向上し、2009年では68.0%となり、基準年(2004年)対比では、+8.7%となっています。(表5) これは、びん分別収集の強化による成果であるが、直近2010年では、カレット回収量はほぼ頭打ちとなっており、あきびんの収集段階で細かく割れたガラスびん残渣の資源化が課題となっています。

【表5】リサイクル率の推移

	2004年 (基準年)	2006年	2007年	2008年	2009年
リサイクル率(回収・再資源化率)	59.3%	60.4%	63.9%	65.0%	68.0%



●リサイクルの容易性向上については、再商品化市場の開発拡大を目的とした「カレットを90%以上使用するエコロジーボトル」の普及に努め、2009年出荷量は1億8,100万本と基準年(2004年)対比+11.9%と拡大しています。●「化粧品びん」の分別収集促進活動を、日本容器包装リサイクル協会と連携し全国の自治体にて実施しました。(2010年3月調査結果：41.3%の自治体が化粧品びん分別収集を実施・計画中)

### 4 自主設計ガイドライン/容器利用事業者(中身団体)との連携

●アルミ箔ラベルを使用しない等、ガラスびんの3Rを推進するための「自主設計ガイドライン」(ガラスびんの組成、質量、ラベル、キャップ等に関する事項)を2007年3月に最終決定し、製造・利用事業者への周知・徹底に努めました。

●容器利用事業者(中身団体)に対する「ガラスびん3R進捗報告会」を毎年定期的に行い、ガラスびんの3R取組進捗と課題の共有化をおこなった。

### 5 広報活動

●ガラスびんの3R総合パンフレットとして「ガラスびんBOOK」を制作・配布し、容器排出方法については、「ガラスびんの流れ(リユースとリサイクル)」ポスターを制作・配布し広報に努めました。



●ホームページの抜本的見直しとキッズページの刷新を図り、情報発信力の強化をはかりました。



## 次期5ヶ年に向けた課題・方針

- 資源循環促進並びに環境負荷低減に向けたガラスびんの3R(リデュース・リユース・リサイクル)の取組みについて、第一次自主行動計画の成果を基に、消費者団体や自治体との相互連携を図り、さらに積極的に推進していきます。
- 容器の軽量化をさらに進めるとともに、未回収びんの回収強化によるカレット回収量の増量と資源循環の強化をはかり、バージン原料

(珪砂・石灰石・ソーダ灰)の節約に努めます。

- ガラスびんの特徴である、リターナブルびん商品の減少とリターナブルびんの社会的な認知率低下が顕著になっており、ガラスびんリユースシステムの存続に向けた取組みについて、国・自治体・事業者・消費者等、すべての関係者が連携の上、推進していく必要があります。

## 第二次自主行動計画

### 3Rの推進目標

#### (1) リデュース：1本当たり2.8%の軽量化を目指す。

軽量化余地のある容器についてのさらなる軽量化(薄肉化)を推進し、1本当たりの平均重量を2004年対比で2015年までに、2.8%軽量化を目指します。

#### (2) リユース：リターナブルびん普及の取組みを推進。

ガラスびんのリユースシステム存続に向けて、市場別に課題を明確化の上、関係主体と連携のもと、リターナブルびん商品のPRや利用実証事業に取り組めます。

#### (3) リサイクル：リサイクル率70%・カレット利用率97%を目指す。

●家庭・事業系から回収されずに廃棄される「未回収びん」の資源化及び市町村の回収で細かく割れて色分けできず資源化されない「ガラスびん残渣」の減量化によるカレット回収量の増量をはかり、資源循環の促進をはかります。

- 2015年度までにリサイクル率70%以上を目指すと共に、ガラス容器製造業における再生材利用促進の指標となるカレット利用率について、2015年までに97%を目指します。

### 主体間の連携に資する取り組み

#### (1) 広報活動

●ガラスびんの「3R」の取組みや「びん to びん」リサイクルの有効性について、消費者への積極的な広報活動をおこないます。

●ポスターやリーフレットの作成、インターネットの活用、展示会への参加など、様々な媒体により、消費者視点でのPR・啓発に努めます。

#### (2) 調査・研究活動

リターナブルびんに関する消費者の意識・行動調査や、新たな宅配システム等の研究をおこないます。



## 昨年12月「エコプロダクツ2010」に出展。 第1回ポスターコンクールの入賞作品を紹介。

昨年12月9日(木)～11日(土)、東京ビッグサイトで「エコプロダクツ展2010」が開催され、当協議会は2003年以降8年連続で出展しました。三日間の入場者数(事務局発表)は、前年を上回る183,140人となり、当協議会ブースも多数の来場者で賑わいました。とくに環境学習の一環として、小学生の来場が多く見られました。



▲ポスターコンクールの入賞者を紹介するタワー

今回の展示では、従来のガラスびんの3Rに関する紹介に加え、昨年当協議会主催で実施した「ガラスびんリサイクル・ポスターコンクール」の入賞作品をフォトフレームで紹介しました。入賞者のご家族が、作品を紹介するタワーの前で記念撮影を行なう姿も見受けられました。



▲当協議会のブース



▲びんの3Rの説明を聞く子どもたち

## 3R推進団体連絡会が 「2010年フォローアップ報告会」を開催。

昨年12月15日、経団連会館において、3R推進団体連絡会が、「2010年フォローアップ報告会」を開催し、「容器包装の3R推進のための自主行動計画」に基づき、2009年度の取組状況とその成果について、報道関係者60名を招いて報告しました。ガラスびんに関する2009年度の取組みの主な実績は以下の通りです。

### リデュース

- 基準年(2004年)対比で1本当たり1.8%の軽量化
- 新たに軽量化されたのはガラスびんは6品種16品目

### リユース

居酒屋チェーンと連携したPB清酒のリユース化事業(平成21年度環境省地域省エネ型リユースモデル事業)

### リサイクル

- リサイクル率68.0%(対前年+3.0%)
- カレット使用率74.2%(対前年±0%)



▲2010年フォローアップ報告会



▲報告書

フォローアップ報告の詳細

[http://www.glass-recycle-as.gr.jp/3r\\_suishin](http://www.glass-recycle-as.gr.jp/3r_suishin)

## 3R推進団体連絡会が“名古屋市民”と語り合う 「容器包装3R連携市民セミナー in名古屋」を開催。

平成23年2月5日、今年で6回目となる3R推進団体連絡会主催の「容器包装3R連携市民セミナー」が、名古屋市の共催で開催されました。当日は、中部大学工学部教授の行本正雄氏をお迎えし、「低炭素社会実現のための容器包装3Rの役割」についてご講演をいただいた他、3R推進に向けての活動報告、名古屋市民を交えた行政や事業者とのパネルディスカッション「3R推進に向け協働して何ができる?」を行いました。



▲パネルディスカッション

## 環境省が「我が国におけるびんリユースシステムの 在り方に関する検討会」を3回にわたり実施。

現在ある一升びんやビール等のリユースの基盤を維持しつつ、新たなガラスびんのリユースシステムを推進するために、環境省では「我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会」を、本年2月1日・22日、3月22日の3回にわたり実施。関係者からリユースの現状についてヒアリングを行うとともに、課題や対応策について議論を展開しました。

当協議会は、第1回の検討会で15年前に比べてリターナブルびんが5分の1近くまで減ってきている現状を報告しました。



▲我が国におけるびんリユースシステムの在り方に関する検討会

## 昨年に引き続き、ポスターコンクール開催！ 募集告知にご協力をお願いします。

小・中学生に対して、エコな容器であるガラスびんに興味をもってもらい、ガラスびんのリデュース・リユース・リサイクルの「3R」について知識を深めてもらうことを目的に、昨年に引き続き、ポスターコンクールを開催します。多数のエントリーがありますよう、募集告知にご協力くださいますよう、よろしくお祈りします。



▲ポスターコンクールの告知チラシ

■募集要項：今号に差し込まれているチラシを参照

■応募方法：チラシ下部にあるエントリー用紙に必要事項を記入して、作品の裏面に貼って当協議会まで郵送

※募集要項を記載したチラシは、ホームページからもダウンロードできます。